



いろは呑龍新聞

2019年(令和元年)10月号
第46号

台風第19号で被災された地域の方々に心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

雨水の「貯留」と「流下」で浸水被害を解消！

和井川接続施設 推進工事の発進に向けて準備中！

整備状況

向日市上植野町において工事中の和井川^{わいがわ}接続施設は、豪雨などで急激に増水した河川水の一部を“いろは呑龍トンネル南幹線”の本管に流入させるための施設です。

今年9月に立坑^{たてこう}を構築する工事が完成し、現在は地下約20mの深さに延長230m、内径2.2mの接続管きよを設置する工事を進めています。管きよの設置位置が深く、地表を掘削して設置する場合は交通規制や支障物の移設など地上部分での影響が非常に大きくなるため、この工事では「推進工法」というトンネル工法を採用しています。



▲ 9月に完成した特殊人孔外壁部

推進工法は上下水道をはじめ、ガス、電力などのライフライン整備を支える大切な技術なんだ。



地上部



推進工法について

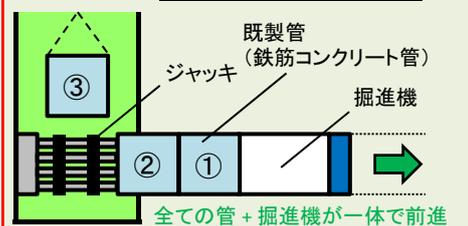
立坑から掘進機と呼ばれる機械を発進し、機械前面のビット(突起)が付いた面盤を回転させて地盤を削り取って掘り進み、管きよを設置します。

すでに完成した南幹線本管の工事で採用した「シールド工法」と掘進機を用いる点は同じですが、管きよの構築方法が異なります(下図イメージ)。

施工延長や急カーブの有無などにより、最適な工法を使い分けています。

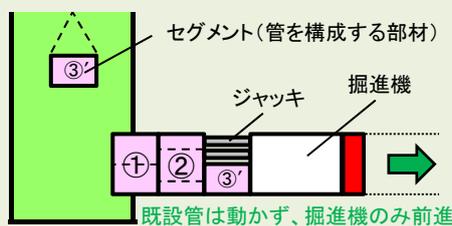
(今回)推進工法

発進側の壁面に設置したジャッキで反力を取り、管を押し込みながら掘進。掘進方向の最後尾に既製管を据付。



(南幹線本管)シールド工法

掘進機に装備したジャッキを背面のセグメントに押し付けて掘進。掘進方向の先頭でセグメントを組立。



▲ 推進工法で使用する掘進機



見に来てね！

いろは呑龍新聞
バックナンバーは
こちらから

<http://www.pref.kyoto.jp/ryuiki/donryu.html>

